

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	マリアーノみかげ			
○保護者評価実施期間	令和8年2月17日		～	令和8年3月16日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	21名	(回答者数)	15名
○従業員評価実施期間	令和8年2月10日		～	令和8年2月18日
○従業員評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数)	6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月26日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	療育内容が個別化されていること	<ul style="list-style-type: none"> 療育内容が個別化されていることで、より発達段階や特性に合わせて本人が主体的に過ごすことが出来る 「本人」がどのように過ごしたいかという意思を大切にしている 個々のニーズに応じた個別のプログラムを実施している 	<ul style="list-style-type: none"> 「本人」のニーズや思いを聞き取るために十分な時間の確保をする 個別のプログラムやトレーニングの専門性を高め、充実をさせていくために医療、リハビリ機関等と連携を目指す
2	小学校低学年から利用し始め、高校卒業まで利用を継続される利用者が多く、長期的に見た支援が出来ること	<ul style="list-style-type: none"> 「本人支援」においては、成育歴、家族の状況等も含めた幅広い視点を持って支援に当たることが出来ている 保護者からの相談に対しては幼い頃から積み上げてきた保護者と同じ視点を持つことによって、支援の連続性を意識した相談援助を行うことが出来る 	<ul style="list-style-type: none"> 支援の連続性という強みを生かし、学校卒業後の成人期への移行を意識した支援ネットワーク作りを目指す グレーゾーンの利用者、家族への対応を強化する

3	地域支援・地域連携を意識し、地域の他事業所との連携を密に図りながら、支援のネットワーク作りに努めていること	・開所当初から区内の自立支援協議会(こども部会)や事業所連絡会に積極的に参加している	・相談支援事業所を含めた支援者会議の件数を増やし実績を積んでいくことで、更につながりを強化していく
---	---	--	---

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	利用者の進路についての情報が少ないこと	・成人期の障害福祉サービスについての知識と経験を持ち合わせているスタッフは複数いるが、児童～成人の移行期の経験がなく、進路選択において今の世代に合った情報をスムーズに提供出来ない	・学校、支援学校と連携し、個別支援計画を共有しながら進路の情報を得たり、支援については同じ視点をもって進めていくこと ・同じようなニーズをもつグループで保護者会を開催したり、先輩保護者の生の声を聞く機会を設けること
2	事業所全体としての情報発信が不足していること	・事業所と保護者との個別的なやり取り、情報発信に留まり、全体的な情報発信業務に時間を割くことが出来ない ・事業所全体をアピールするようなノウハウが未開発である	・保護者にどのようなニーズがあるのかを熟知し、今の世代に合った有効的なツールを取り入れる
3	スタッフの専門知識、援助技術の育成力が足りないこと	・研修の機会は設けているものの、スタッフの入れ替わりにより、専門性の浸透は難しく、全体として成長していかない	・スタッフ1人1人が余裕をもち、業務以外の様々な場面(研修やボランティア等)でも自己研鑽出来る時間を持たせ、労力を注ぐことが出来るように業務の改善を目指す